生かされて生きる「お加持」

犬山・寂光院山主
松平實胤



◎ご祈祷には順序があります

まもなく八月九日「九万九千日功徳万倍日」を迎えます。酷暑の中のお参りですが、功徳が万倍になると伝えられ、悪病や厄難を払い、福徳を招来する「特別大護摩祈祷」が厳修されます。

さて、ご祈祷には順序次第がございます。まず、御祈祷を受けるにあたって必ずお清めの作法があります。これは「本来の自分（誰にでも備わっている『仏性（仏としてのDNA）』、『仏心』）に戻る作法です。その仏心で仏さまと対話をする、これではじめて「祈り」が成り立ちます。（ご祈祷を修する導師や僧衆がそのお清めの作法を正確に執り行うのは言うまでもありません）

次に導師はご本尊様に祈願文をお唱えします。この祈願にも順序があります。まず「天下泰平（世界平和）」を願い、次に「風雨順次（本来の季節の巡り）」、「五穀豊穣（天地の実り豊かなこと）」「万民豊楽（すべての人が心豊かに幸せであること）」を祈願するのです。私たちは煩悩のゆえに常に利己的で、自分の内にしか向かない眼を持っていますが、先ず広く外に向ける、その崇高な願いの上に、自分の願いも浄化されるのです。

◎続いて導師は加持祈祷の神髄に迫ります

加持祈祷の加持は「加える」と「持つ」という二つの動詞からなる熟語です。動詞は必ず主語を必要とします。誰が何を加えるのか、誰が何を持つのか、です。

さて、人間にとって一番大切なものは命に決まっています。しかし、「命よりも大切なものがある」というのが仏教の大前提です。命は「息の力」です。私は今息をしていますが、この息は生まれた瞬間から始まるものではありません。親のない子供はいませんから、息の力はずっと繋がっていて、いまだかって絶えたことがありません。例外なく、どなたの〈息の力・命〉も命の本源、大いなる命、大いなる宇宙にまで繋がっています。無限ともいえる限りない時の流れ、はかり知れない条件がこの私の命を支えて下さっているのです。

今なお一時も休まず、天地自然をはじめとするすべての環境、全ての人、モノ、条件が私を支えて下さっています。このお支え無くして私たちは生きていけません。この私を支えて下さる全てを仏格化して「仏」といいます（それを日本人は「おかげさま」と表現してきました）。私たちは決して自分で生きているのではありません。仏さまに生かされて生きています。

加持の加は「仏さまが私たちを生かそう、よくしよう、よくなってほしいとあらゆる力を加えていて下さる」、加持の持は「私たちが『仏さまに生かされて生きている』ということに気付き、その仏さまの願い応えて前向きに生きる勇気を持つ」ということです。

加持祈祷のご利益はまず第一に「俺が生きる」というおごりを振り払い、安らかなる心でどんな条件のもとでも、今ここを精一杯前向きに生ききる「生きる力」を頂戴する事であります。

「悪病厄難を払う」とは様々な原因で低下している「自然治癒力・免疫力」という「生きる力・生命力」を回復する力を戴く事であります。